

まつやま中学生海外派遣2026

ドイツ班

2026.7.19～7.29

ドイツ班 日程表



月日	行程
7月19日(日)	松山空港発
7月20日(月)	フランクフルト空港着
7月21日(火)	ゲーテ・ギムナジウム校訪問 市役所表敬訪問 ウェルカムパーティ
7月22日(水)	大聖堂見学 伝統楽器作り
7月23日(木)	ゲーテ・ギムナジウム校にてダンス教室 ドイツ料理
7月24日(金)	ゲーテ・インスティテュートにてドイツ語教室 エコステーションにて環境学習
7月25日(土)	ホストファミリーと過ごす
7月26日(日)	ホストファミリーと過ごす
7月27日(月)	ペタンク体験 サッカースタジアム見学
7月28日(火)	フランクフルト空港発
7月29日(水)	松山空港着



これは、フライブルク市役所の前にあった松山市のマークです。松山市と姉妹都市になった際に作られたものだそうです。僕はこれを見て、松山市とフライブルク市の関係の良さが現れているなと思いました。



これは、ドイツの伝統的なスイーツのスパゲッティアイスです。これは、細長くなったバニラアイスにイチゴソースをかけています。日本にはない発想のスイーツで、甘くて触感もよく、とても美味しかったです。



これは、休日にみんなで行ったとても長いつり橋です。下が網で穴が開いていて、落ちそうでとても怖かったです。しかし、橋の上からは海外ならではの独特な家やその奥に広がる山々がとても絶景でした。



これは、SCフライブルクというサッカーチームのスタジアムです。SCフライブルクには現在、日本代表の鈴木唯人選手や後藤啓介選手が所属しているチームで、見学がとても楽しみでした。スタジアムのスケールの大きさにとても驚きました。



フライブルクの特徴として、土地が狭いため、高い建物が多い事がわかりました。建物一つ一つが色鮮やかで、温かい雰囲気を感じました。空気が澄んでいました。ドイツは内陸部のため、昼夜の温度差が激しく、厚手の上着が必要でした。



大聖堂はフライブルク市内を一望できる場所です。とがった屋根が多く、窓が多い建物が多かったです。大聖堂はとても高い場所です。風通りがよく、涼しかったです。大聖堂をつかった、その時代の文明など知ることができて良かったです。



フライブルクの主食はパンです。毎朝パンを食べて学校に行きます。パンには、チョコレートやバター、イチゴなどをのせて食べました。おいしかったです。他には、ピザやソーセージなど、小麦や肉を使った料理がありました。とてもボリュームがあって、量が多かったです。



ここでは、地元のサッカーチームのホームのスタジアムです。鈴木唯人などの有名な選手が属しています。毎年上位にいる、とても強いチームです。アウェーのチームがスタジアムに来た時に、自分たちのチームのシールを貼っていました。



これは、ドーナケバブという食べ物です。これは、色とりどりの野菜とケバブをフランスパンよりは柔らかいパンに挟んだものです。ケバブをはじめて食べてみて、ケバブだけだったら、辛いと思いました。でも、あっさりとした夏野菜と、水分の少ないパンが肉の油や旨み成分をいい感じに調整してくれていました。これは意外とボリュームが大きいので食べるのも大変だし、お腹も膨れました。



これは、スパゲッティアイスです。ドイツに行く前の研修でも誰かが紹介してくれていた有名な食べ物です。スパゲッティアイスを食べしてみて、モンブランの柔らかいアイスバージョンって感じがしました。スパゲッティアイスは、カップまで食べられるので、カップ式のソフトクリームみたいに食べる事が出来たのでゴミが最小限になって環境に配慮されていると思いました。



ホストファミリーとの時間の時に、アニマルパーク(動物園)に行きました。アニマルパークという名前に違和感を持ちながら見てみると、所々に遊具があり、公園のようでした。他にも動物園ではなくアニマルパークというところで魚が飼育されているブースもありました。そこでやっと名前の意味がわかりました。ドイツと日本の気候に差があるように、飼育されている動物にも違いがありました。例えば、ミーアキャットや、モルモット、バツファローなど、とべ動物園では見られない動物がたくさんいていい経験ができたと思います。そして、アニマルパークには、ミニ日本庭園のようなものがあつたので、姉妹都市として日本を受け入れてくれているんだなと感じました。



これは、シュニッツェルです。これも、ドイツに行く前の研修で紹介してくれていたドイツの伝統的な料理です。僕は、シュニッツェルを食べてみて、日本料理の豚カツに似ていると思いました。シュニッツェルは、トンカツとは違って、レモンをかけて食べます。そして、中のお肉はとてもあっさりしています。



週末のおでかけの時に、マクドナルドに行きました。ドイツのマクドナルドでは、各家庭からマイボトルなどを持ってきてもらいゴミの発生を防ぐために様々なものに包装税がかかっています。例えば、ドリンクカップ1つで0.5€でした。



ゲーテギムナジウム校には、正門の前に広場のようなスペースがありました。休み時間にはそこでたくさんの生徒さんがバレーをしたり、サッカーをしたり、卓球やバドミントンをしていました。ほんとにスマホを触ってる子供が少なかったのがいいなと思ったところの1つです。



ドイツにはトラムという電車が走っていて、そののいいと思ったところがドアの開閉ボタンがあったところです。ベビーカーや人がいっぱい乗車する際に、電車内にいる人がそのボタンを押しているところを見て、心が温まりました。



最終日のBBQの時に、みんなでバレーをしていたら、小さい女の子や、カッコいいお兄さんに一緒にやっていい?と聞かれて一緒にバレーすることができました。ドイツ人のコミュニケーション能力はすごかったです。



SCフライブルクのスタジアムでは、両チームの観客席の間がネットやアクリル板で仕切られていました。物を投げたり、トラブルが起きたりするのを防ぐためだそうです。安全に観戦するための工夫がされていて、日本との違いを感じました。



ペットボトルや缶などを購入すると、デポジット（容器代）が上乘せされます。飲み終わった容器をスーパーなどの回収機に返すと、デポジット分のお金が返金される仕組みです。ペットボトル1本あたり25セント（約46円）が返金されます。



街を歩いていると、道路沿いに小さな水路を見つけました。水が流れているのがとても珍しく、日本の街ではあまり見ない光景だったので驚きました。実際に街を歩くことで、ドイツならではの景観を身近に感じることができました。



みんなとミートソースパスタを作りました。お肉には大豆などを主成分としたものを使い、ベジタリアンの人も食べられるよう工夫されていました。実際に食べてみると普通のお肉に近く、とても美味しかったです。食の多様性について学ぶ良い経験になりました。



フライブルグ市には、街の壁にいろんな人が自由に描いた絵がありました。日本では、街の壁に絵が描かれていることがあまりないので、実際に見てとても面白かったです。また街のどこを見ても、絵が描かれていて印象に残りました。



市場では日本ではあまり見ない野菜や果物が売られていました。しかし中には、日本でも知られている山葵が売られていて、驚きました。また屋台で買ったソーセージは日本のものより長くて肉感があり、おいしかったです。



私はホストファミリーと過ごす休日でヨーロッパ・パークに行きました。ここでは、ヨーロッパの国々をテーマにエリアが分かれていて、それぞれの風景を楽しみ、たくさんのジェットコースターに乗りました。どれもスリルがあって、面白かったです。



SCフライブルクスタジアムは、34,700人を収容できます。また屋根の上にソーラーパネルを設置し、太陽光発電を行っているを知り、環境に配慮した取り組みをしていることにも感心しました。ほかにも、自分が座った座席にステッカーを貼ることが認められていて、日本とは違うサッカーの楽しみ方を知れました。



マルティン門の時計

興味深いところ

- ・ 13世紀に建設されて今も残っている
- ・ 20世紀にトラムを通すため、元の高さの3倍にされた



SCフライブルクスタジアム

興味深いところ

- ・ 隣接する飛行場があるため、低く建設されたり、屋根で太陽光発電をしたりされて、深く考え尽くされている



シュニッツェル

興味深いところ

- ・ 仔牛肉を使うもの、豚肉を使うもの、鶏肉を使うものなどたくさんの種類
- ・ パンに挟んでバーガーのように食べる食べ方もある



スパゲッティアイス

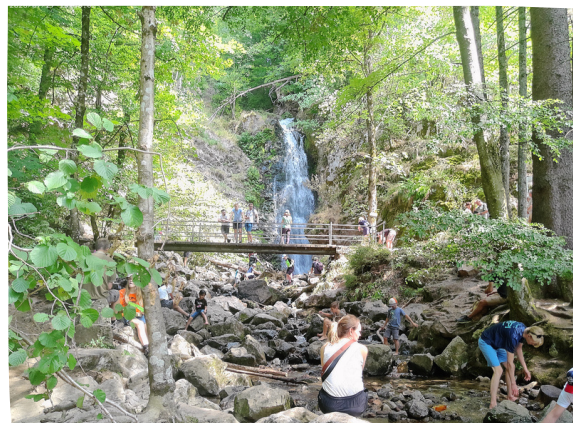
興味深いところ

- ・ 麺風に絞り出したアイスが本物のパスタに見える
- ・ スパゲッティという名前からイタリアと思われるがドイツ名物というギャップ



市内裏山散歩の時に、ホストファミリーの子と好きな教科やスポーツについて詳しく話しました。

ドイツ語の簡単な挨拶も教えてもらったので日本語の挨拶も教えてあげられました。



みんなでピクニックにも行きました。とても高く、長い橋がありました。私は、高いところが苦手なので山を下るルートから行きました。小さな滝がいくつもあって綺麗でした。



ホストファミリーとフェスに行きました。私の行ったフェスは、動物園の隣で行われていたので帰る前に動物園にも行きました。動物園は日本に比べて大きくて珍しい動物も多くいました。水牛がご飯を食べているところも見れました。



スパゲッティアイスというドイツの伝統的なアイスを食べました。スパゲッティアイスは、スパゲッティっぽく見える部分がバニラアイスで出来ていてソースがいちごジャム、粉チーズがホワイトチョコで出来ていて美味しかったです。



こちらは展望台からとったものです。私は派遣前、フライブルクは歴史的な建造物や古い家ばかりの街だと思っていましたが、近代的な建物も、ミュンスターの少し離れたところにあることがわかりました。

また大学もあるため若者が集まりやすくフライブルクの人口は増加傾向にあることを知りました。



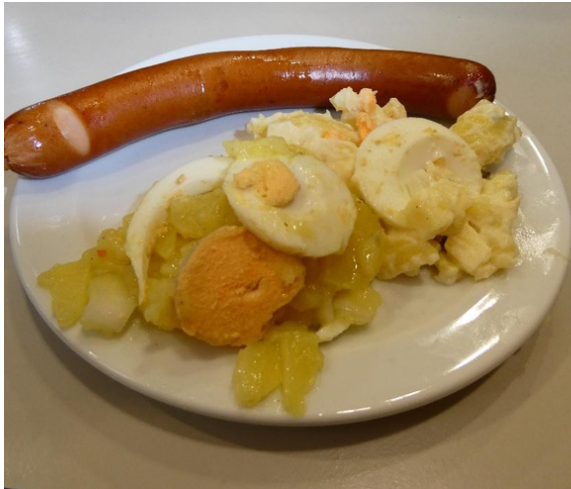
こちらは町でよく見かけたReib Backというパン屋さんです。ドイツのパンは日本のパンよりも中身がずっしりしていて食べ応えがあります。たくさんの種類が並べられたパンに照明が照らされているためとてもおいしそうに見える店の雰囲気もいいです。地元の人たちはここを特別な時に利用するのではなく「毎日の食料を買いに行く生活インフラ」として使っているのが印象的でした。



このシュヴァーベン塔は、旧市街に残る1250年頃に建てられた中世の歴史的な城門です。この塔の下にはトラムが通っており、市民にとって環境にやさしい身近な乗り物になっています。当時の街並みが残っており、そこに人々が今でも住んでいることに驚きました。



こちらはBlack forest line のトナウ吊り橋です。休日にみんなと行きました。底面は網目で透けて見え景色がよいですがあまり怖くありませんでした。右側にはトナウ滝があり奥にはシュヴァルツヴァルトの黒い森が広がっています。みんなで散策したのもよい思い出です。ドイツの大自然を体験できました。



ドイツ料理教室ではポテトサラダを作りました。ドイツのポテトサラダは、北ドイツはマヨネーズで味付けされているのに対し、南ドイツは酢などで味付けされていて、地域で味が異なります。文化の違いを体感しながら、みんなで美味しくいただきました。



土曜日にホストファミリーとフランスのコルマルを訪れました。美しい教会に行ったり、まるで童話の世界に入り込んだような美しい街並みに圧倒されました。ドイツ以外の国の文化にも触れることができ、とても思い出に残る1日になりました。



環境施設「エコステーション」で見つけた「虫ホテル」は、木や竹に作ったり穴の中に昆虫やその幼虫暮らせるようになっています。生き物を守るための取り組みが行われていて、環境を大切にする姿勢を私も見習わないといけないなと思いました。



日曜日はドイツのトートナウにある「ブラックフォレストライン」というつり橋に派遣生のメンバーとメンバーのホストファミリーと一緒にきました。豊かな森の上に架かる橋からの景色は圧巻で、スリルを感じながらもドイツの大自然を体感できました。



ドイツ班

7月19日～7月29日



感動したこと

写真には、街中でバイオリンとアコーディオンを演奏している人たちが写っています。道路のすぐ近くで演奏していて、周りには演奏を聴く人や通り過ぎる人もいました。日本とは違い、こんなにも身近に音楽を感じられることに感動しました。ドイツの文化をより身近に感じることができました。



私たちの班の推し

私たちの班の推しは、週末のおでかけの時に行ったこの大きな橋です。この橋はすごく高くて長かったですごく怖かったです。特にAさんがすごく怖がっていて面白かったです。また、見てわかるようにすごく自然が近くて、お昼ごはんは滝の上の岩で食べました。日本ではあまり体験できないようなことすごく楽しかったです。



派遣前のイメージと違ってしたこと

両親が日本人でずっとドイツに住んでいる日本人です。14歳にも関わらず、とても大人びていると感じました。ドイツ語はもちろんドイツの学生は第2言語である英語も流暢で、日本語も堪能でした。僕たちも英語を日常会話で使えるようになるべきだと感じました。



松山市立南中学校 教諭 藤原 禎美

ドイツ、フライブルグでの約10日間の研修を通し、思春期真っ只中の中学生が現地で人との触れ合いを通して国際的な感覚を学ぶということは、なんと贅沢なことかと実感させられました。豊かな自然と美しい街並みの中、生徒の皆さんが好奇心いっぱいに新しいものを吸収しようとする姿、自分の伝えたいことを必死で伝えようとする姿、異文化にとまどいながらも日々成長する姿がとても印象的でした。

この研修の素晴らしいところは、海外の文化だけでなく自国の良さも再認識すること。そして「楽しかった」で終わらず、「続きがある」ことだと思います。「ドイツでいただいた御恩をどう返そう。ホストファミリーが日本に来たらどこに案内しよう。」目を輝かせながらそんな話をする皆さんがとても素敵でした。今回のご縁を大切に、皆さんが将来日本と世界の架け橋となり、グローバルな視野を持つ豊かな大人になることを願っています。



済美平成中等教育学校 教諭 倉本 京子

9日間に及ぶ海外派遣の中で、大きな不安と戦いながらも、たくさんの刺激を受けて成長していく生徒の皆さんの姿に、私も学ぶことが多々ありました。ただの旅行とは違い、ホストファミリーと寝食を共にしたり、文化の違いや言語の壁に悔しい思いをしたりと、もしかしたら心地良い環境ばかりではなかったかもしれません。

そんな中でも、10人で励まし合いながら、日々のプログラムに熱心に参加し、今できることを楽しもうとする姿勢は、実に頼もしいものでありました。元気湧きあふ皆さんとドイツに行けてよかったです！

本当にお疲れ様でした。